

日本人とはだれか？

私は、残留孤児の研究をしている。残留孤児とは、一九四五年の日本敗戦時に中国に置き去りにされ、一九七二年の日中国交回復以後に日本に帰ってきた人々だ。

残留孤児は中国にいたとき、「日本の血統をひく日本人」として差別された。日本に帰国すると一転して、「日本語ができない中国人」とみなされて差別された。そこで「自分はいったい何人なのか」という葛藤に悩まされてきた。

しかし、よく考えてみると「日本人」や「中国人」は、血統・国籍・出生地・定住地・言語・文化のいったいどれによつて決まるのか。

それらすべてが完全に「日本」でなければ「日本人」と言えないというなら、中国人を祖父にもつ赤穂義士の武林唯七は日本人ではない。逆に一つだけでも「日本」なら「日本人」だとすれば、日本に定住する外国人は皆、日本人だ。法律的な国籍で決まるといふなら、日本に国籍法ができた一八九九年以前、日本人はいなかったことになる。古代の日本列島には大和や出雲、熊襲、蝦夷などさまざまな言語や文化の人々がいたが、いつ、どのようにしてその人々は日本人になったのか。北海道にはアイヌという先住民がいるし、一八七九年まで沖縄は「琉球

国」という独自の国家体制を保っていた。

実は「日本人」も「中国人」も、それほどはっきりした定義や境界線があるわけではない。アンダーソンという学者は、「ネイション（国民・民族）」とは、イメージとして心に描かれた想像の政治共同体だ」と述べている。

残留孤児が「自分は何人なのか」と思い悩むのは、むしろまっとうである。本当に自分を知らないのは、「自分は真正正銘の日本人（または中国人）だ」と思い込み、外国人や異民族を差別・排除している人たちの方だ。